



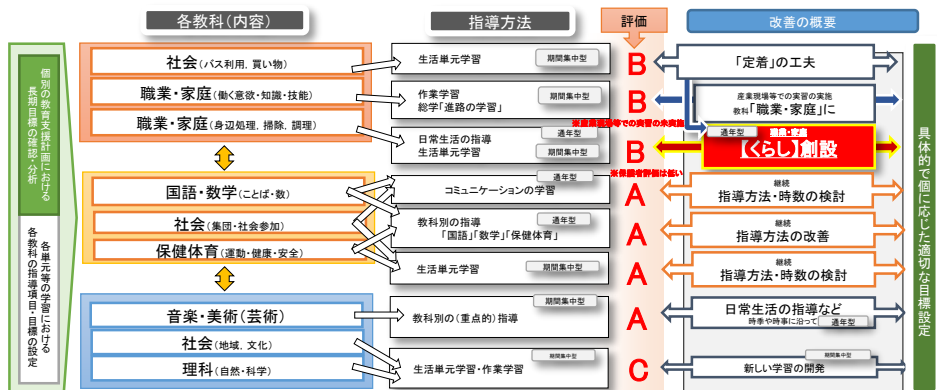
手伝いなど1週間で取り組む回数 対象: 中学部18人 回答: 保護者

【掃除や調理について】

- 1週間に1回程度の取り組みになっていた。
- 学校での学習を実際生活に生かすことが極めて少なかった。
- 学校での学習が一過性のものになり、定着や汎化ができていなかった。
- 多くの生徒が長期目標に設定しているが、保護者の評価が低かった。
- 本校卒業生の追跡調査の結果、調理や掃除についての技能が家庭生活の中で求められている。

家庭生活で
生かしていない

H27 個別の教育支援計画における長期目標の評価結果と改善から



確かな力を身に付ける**学び方**の追求

知的障がいのある生徒が学びやすい**学び方**

主体的・対話的で深い学びの実現

家庭分野の
学習方法の
特質

実践的・
体験的な
学習活動

実際の生活に
生きる力

生涯に
わたって
活用できる力



題材の
目標

- 1) 様々な調理用具の使い方や調理法を覚えることができる。【知識・技能】
- 2) 友だちの意見等の情報や手順表を活用して考え、判断して自ら調理ができる。【思考・判断・表現】
- 3) 本題材で学んだ知識や技能、自ら考えて工夫したことなどを学校や家庭生活で生かすことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

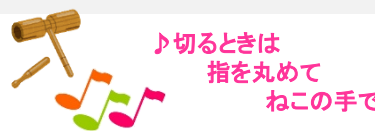
具体物や半具体物
(絵カードの操作)

実物や絵カード等で課題内容を具体的に意識したり、思考や表現を操作的にできるようにした。



cf.「話す」を支えるトーキングエイド
「考える」を支えるシンキングエイド

リズムに
乗せた
フレーズ



学習における重要な言葉を自然と覚えることができるように、テンポの良いリズムに乗せたフレーズとして繰り返して伝えていく。

活動の意識付け
(ミッションと
チャレンジポイント)



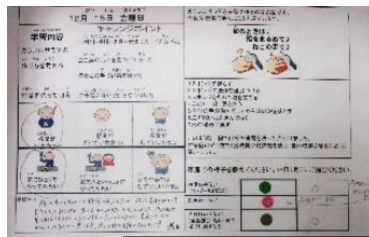
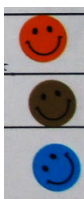
ミッション（授業のめあて）やチャレンジポイント（各生徒が必ず取り組む学習課題）を毎回設定することで、学習における課題意識を高め、生徒自身が考える動機付けにする。

学び合いのメソッド



A「考えを理由や根拠で示す生徒」
B「考えを言葉や行動で示す生徒」
C「模倣して考える生徒」の3つの様子で生徒を捉え、実践する順番は、学び合いの深まるB→A→Cとした。

振り返り
シート



家庭でもチャレンジしたいという意欲につながるように、目標達成ができたか一つ一つ確認して自信をもてるようにしたり、家庭で実践できた時にチェックする欄を設けたりした。

共同研究者：
武田先生からのアドバイス

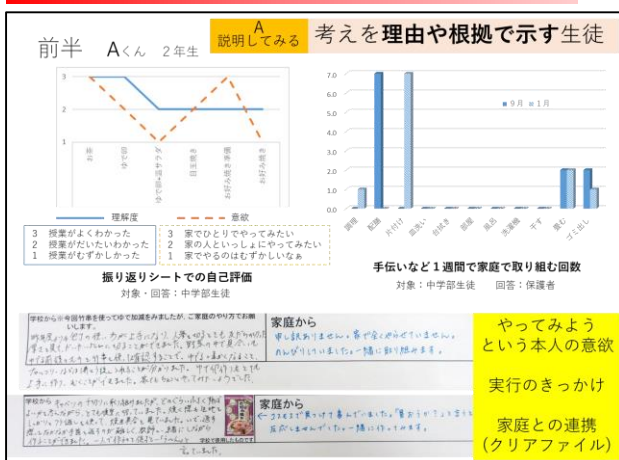
成果と課題

専門分野からのアドバイス

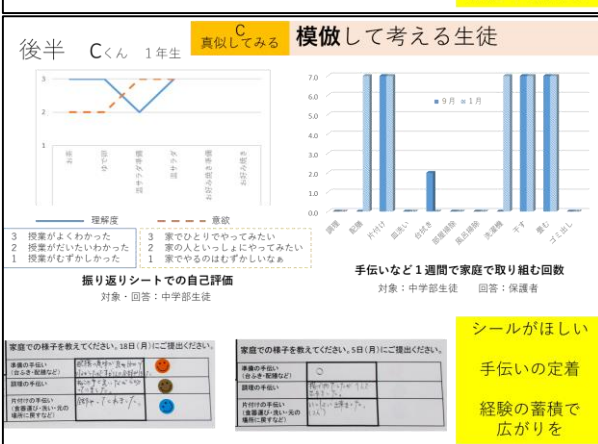
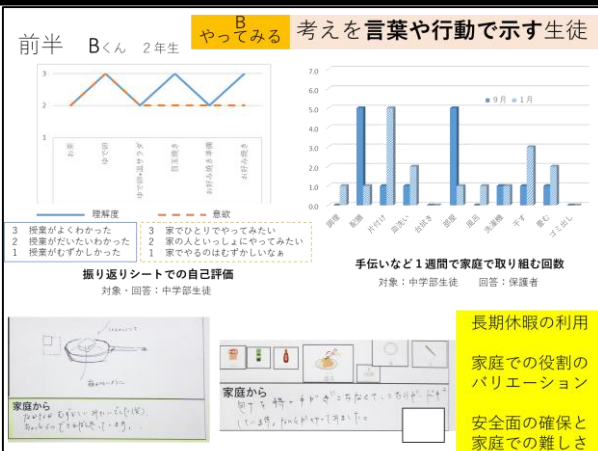
- ・包丁の洗い方、扱い方
→流しに置いて洗う、トレイの使用
- ・「卵がかぶるくらいの水」
→言い方をより一般的なものに
- ・洗わなくていいものまで洗っている→せめて水洗い
- ・環境にやさしい洗い方
→新聞紙の活用
- ・楽しそうでない。食の感じがしない。

より具体的な提案

- ・時間配分
- ・焼くことに焦点を当て詳しくやると、裏返す大切さがわかるのでは
- ・絵カード操作では「手順」からではなく「材料」から決めては
- ・次年度の調理のテーマ
→ホットプレートや電子レンジ等の加熱調理



←冬休みの
日記より



- ・シンキングエイド
絵カード操作で、学び合いがアクティブに
→説明するのが難しい生徒も「考える」「表現する」ができた
- ・積極的な生徒の姿
→生徒自身が家庭で話題に出す
→振り返りシートの活用により生まれた調理の必然性
→家庭での役割

身についた力
自信
次の行動へ

生涯にわたって活用できる力を育む
土壌ができてきた

・家庭との連携のしかたの工夫
→授業内では主体的、家庭では…

・家庭では取り組みづらい調理
→原因は、安全面への配慮、家庭での役割としての必要性の低さ
→手伝いとしても取り組みづらい

・調理を行う授業時間が長くかかる
→調理では身に付けてほしい力がよく見える。全て押さえると…
→チャレンジポイントに絞る
→3ヵ年での見通しを

・退屈する子とついていけない子
→みんなが学ぶことのできる展開
→学び合いのメソッドの工夫

・「考える」「楽しい」のバランス
→考える場面が多すぎると、調理自体の楽しみが半減
→学ぶ喜び